

活動内容報告書

団体名		一般社団法人 ある	
直近3か月活動報告	2024年 2月 1日	若年妊産婦の就労を支援するために、託児施設をオープンし、赤ちゃん3人を預かる。	
	2024年 3月 9日	沖縄タイムス主催 国際女性デー×フェムテックにて、トークショーに代表理事 登壇	
	2024年 4月 18日	10代ママくらぶin 浦添 (子育て広場Anne)	

活動風景の写真を添付してください

2024年(令和6年) 3月19日 火曜日 沖縄タイムス

LIFE 暮らし

人権や多様性含め性教育

若年ママ支援「チームで」

女性の健康課題をテクノロジーで解決する「フェムテック」をテーマに、浦添市内で9、10の両日、沖縄タイムスが開いたイベント。2人奮闘する姿があり、関心の高さがうかがえた。生理や更年期に伴う心身の変化、子どもへの性教育などについて学び、考えながらプログラムを振り返る。

「みんなで知りたい性のこと」をテーマにしたトークショーでは、学校現場での性教育も若年妊産婦支援に取り組み4人が考えを語り、本紙学芸部の勝浦大輔記者が司会進行した。

登壇者からは、学習指導要領で定められた性教育に関する制限、歯止め規定の課題が挙げられた。保健体育の元教員で、思春期保健相談士の和田なほさんは「年齢が低いほど性に対して備わっていないことに必要な情報と関の教育方針が合っていないのが現状」と指摘。美ら海ニュースクリエティブ代表で産婦人科医の深津真澄さんは「大人数の正しい性教育を受けられず、教育イコール性行為の印象が強い。妊娠して生まれてくることの尊厳、人権を様々な面で守るための包括的性教育は、その子自身に決定権を委ねることも大切だと強調した。

「フェムテック」テーマにイベント

国際女性デー×フェムテック／沖縄タイムス記事より



コメント

毎月、那覇と浦添で2回開催される「10代ママくらぶ」には10人前後のママの参加があります。何回も参加しているうちに、若いママたちの希望は、「車の免許をとりたい」、「学校へ行きたい」、「昼間の仕事をさがしたい」と、具体的に変わってきます。でも、赤ちゃんが保育園へ入れないと、ママのスキルアップも叶いません。それで赤ちゃん3人限定の小さな託児室をオープンさせました。託児スタッフには、地域で活動中のベテラン里親さんです。これまで細々と運営していた「ばあばくらぶ」を認可外保育施設として活用することで、託児できる里親さんを増やしたいと思っています。早速2人のママが、復職しました～！これから、就職、学校への復学など、若いママたちが一歩を踏みだせるよう、育児を応援していきます。寄付金は赤ちゃんの離乳食や自分のためのごはんを一日1食しかとっていないママたちに、しっかり食べてもらうための食材の提供にあてました。これからも10代のママと赤ちゃんの応援をよろしくをお願いします☆